

大雨のとき

雨の降り方と降雨量（1時間雨量）

やや強い雨	10～20mm未満	地面一面に水たまりができ、話し声がききとりにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。
強い雨	20～30mm未満	土砂降りの雨。傘をさしてもぬれてしまうほどの雨です。小河川ならはん濘、また、がけ崩れの心配もあります。
激しい雨	30～50mm未満	激しい雨。山崩れ、がけ崩れがおこりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備が必要です。
猛烈な大雨	50～80mm未満	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほど激しい雨です。
猛烈な大雨	80mm以上	息が苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

地震のとき

震度と揺れ等の状況

震度 4	●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。
震度 5弱	●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものには倒れることがある。
震度 5強	●物につかまらなさと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものがある。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が倒れることがある。
震度 6弱	●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
震度 6強	●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものがある。 ●耐震性の低い木造建物は、傾き倒れるものがある。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
震度 7	●耐震性の低い木造建物は、傾き倒れるものがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものがある。

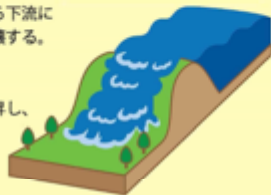
こんなとき、ため池が危ない!!

大雨の場合

ため池の水位が上昇し、堤防をのり越えた水の勢いによって堤防が浸食され、決壊することがあります。流水やゴミ等によって余水吐の断面がふさがると、堤防を越流しやすくなり、浸食・崩壊の危険性は、一層高くなります。

浸透破壊（バイピング）
堤体内部が劣化して、上流から下流に向う水道が発生して堤体を破壊する。

越流破壊
豪雨により貯水位が急激に上昇し、堤体を越えて流れだし、流下することで下流斜面を浸食破壊する。



地震の場合

ため池の堤防が、地震による大きな力を受けて亀裂が生じることによって決壊する危険性があります。比較的小さな地震でも、堤防の内部に生じた亀裂などにより強度が低下し、水圧に耐え切れず決壊することがありますので注意が必要です。

斜面すべり
地震動により、堤体の法面にすべりが発生し崩壊に至る。

堤体崩壊
地震の揺れにより液状化が発生し、堤体や地盤が大きく変形することにより崩壊に至る。



ため池にこんな現象がみられた場合は、決壊の恐れがあります。すぐ避難しましょう!

- 堤防に亀裂がみられる
- 張りブロックが壊れている
- 堤防から漏水がみられる

お問い合わせ先

菊川市建設経済部農林課
〒439-8650 静岡県菊川市堀之内 61 番地

電話 0537-35-0940
FAX 0537-35-2114
メール nourin@city.kikugawa.shizuoka.jp

【保存版】

RESERVOIR HAZARD MAP OF KIKUGAWA CITY

菊川市ため池ハザードマップ

和田奥池
WADAOKUIKE

ため池ハザードマップとは

このハザードマップは、地震や大雨によってため池が決壊した場合に備え、安全に避難するために役立つ情報を分かりやすく住民のみなさんに提供することを目的に作成したものです。日頃からため池災害に備え、ハザードマップの記載内容を確認し、いち早い避難行動や災害応急対応ができるよう心がけましょう。



避難時の心得



がけ地や河川・水路沿い、ため池の正面は危険なので、できるだけ避けて避難しましょう。



単独での行動は避け、隣近所に声をかけ合って、家族やグループで決められた場所に避難しましょう。



お年寄りや子供などは避難に時間がかかります。協力して早めの避難を心がけましょう。



水深がひざまであるようなら無理をせず、自宅の2階や高台などへ避難して救助を待ちましょう。



非常持ち出し品は両手が自由に使えるようリュックサックにまとめ、持ちやすいように用意しておきましょう。



避難先では落ち着いて行動し、身の安全の確保に努め、勝手な判断で場所を離れないようにしましょう。

避難情報の種類と取るべき行動

避難情報には、緊急度に応じて3つの種類があります。どのような違いがあるか確認しておきましょう。

<p>避難準備・高齢者等避難開始</p> <p>①避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難を開始しましょう。</p> <p>②その他の人は、避難の準備を整えましょう。</p>	<p>避難勧告</p> <p>①速やかに避難場所へ避難をしましょう。</p> <p>②外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。</p>	<p>避難指示（緊急）</p> <p>①まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。</p> <p>②外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。</p>
--	---	--

災害が起きたときの連絡方法

災害用伝言ダイヤル 171

地震などの大規模な災害が発生した際、安否の確認や見舞い、問合せなどの電話が被災地に集中し、電話が繋がりにくい状況になってしまいます。災害用伝言ダイヤル171は、このような災害発生時に、被災地内の電話番号を使って、安否等の情報を音声により登録・確認できるサービスです。

171 にダイヤルする	伝言の録音の場合 1	XXXX-XX-XXXX
利用可能な端末 一般電話、公衆電話	伝言蓄積数 1電話番号あたり1～10伝言	録音時間 1伝言 30秒以内
		伝言保存期間 2日間(48時間：自動消去)